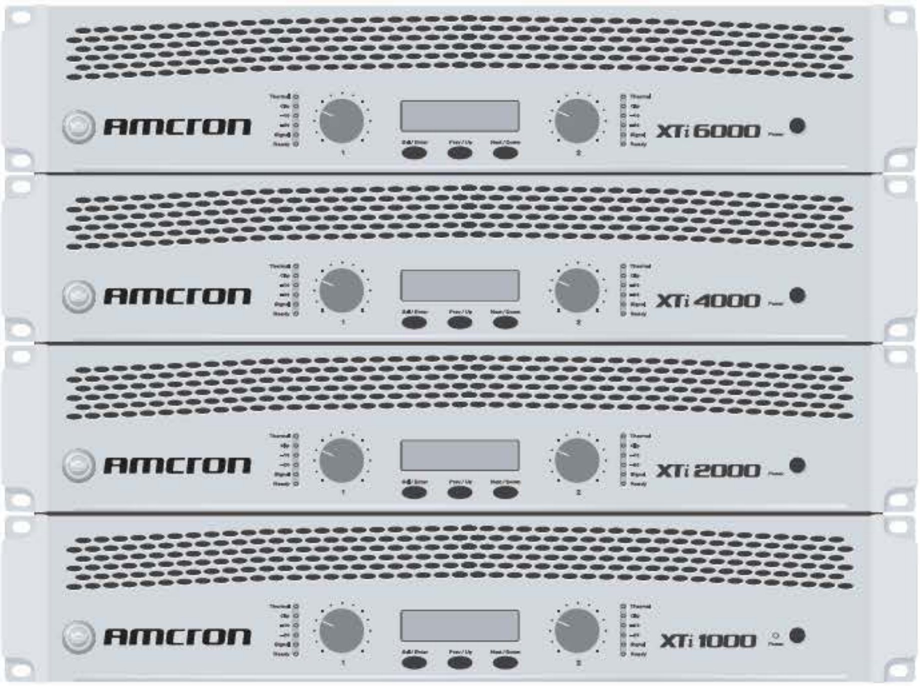
XTi Series パワーアンプ

XTi 1000, XTi 2000, XTi 4000, XTi 6000

取 扱 説 明 書



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠ 警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- 必ず AC100V(50Hz/60Hz) の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源ケーブルは、他の機器に使用しないでください。
- 電源ケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。
- 確実にアース接続をしてください。また、アース線の脱着は電源を外してから行ってください。感電の原因となります。
- 濡れた手で、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

人が傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- 必要な電流容量を安全に供給できるよう、適切な電源回路を用意してください。
- 機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。また、ラックに設置する際は、前面パネルだけでなく背面パネルも固定してください。落下によるけがや故障の原因となります。
- 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。

  直射日光のあたる場所 / 極度の低温又は高温の場所
  湿気の多い場所 / ほこりの多い場所 / 振動の多い場所
- 通気性の良い場所に設置し、機器の吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。
- 機器の移動は、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがやケーブルの破損の原因となります。
- 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。
- スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れるときは一番最後にこの機器の電源を入れてください。また、電源を切るときは一番最初に電源を切ってください。
- 出力の配線は、電源を切ってから 10 秒以上たった後で行ってください。また、出力ケーブルがシャーシや他のケーブルとショートしないよう十分注意してください。感電や故障の原因となります。
- 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。
- 長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、電源ケーブルを取り外してください。火災や感電、故障の原因となります。

使用上不明な点や動作上問題があると思われたときは、ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div. にお問い合わせください。

ヒビノ株式会社
ヒビノプロオーディオセールス Div.
〒 108-0075 東京港区港南 3-5-12
TEL:03-5783-3110 FAX:03-5783-3111
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

■目次

製品の特長 p.3
開梱とアンプの配置 p.4
保証について p.4
故障かな?と思われる症状が出たときは p.4
各部の名称と機能 p.5
・前面パネル p.5
・背面パネル p.6
コネクターへの接続 p.7
接続 p.7
DSP 機能とクイックスタート・プリセット p.8
・DSP p.9
・クイックスタート・プリセット p.9
System Architect ソフトウェア p.10
・ダウンロード p.10
・インストール p.11
・System Architect の操作 p.12
ロック / アンロック p.13
トラブルシューティング p.14
アンプが Fault(故障) モードになった場合 p.14
ブロックダイヤグラム p.15
仕様 p.15

■製品の特長

プロの現場で定評のあるアムクロンのテクノロジーを結集､パワーとフットワークを兼ね備えた先進の SR 用パワーアンプ。小規模なライブハウス、クラブから中小規模の設備まで、用途や会場に応じて効率的なシステムを構成できます。

●超軽量設計

各モデルとも極めて軽量。

電源部に高効率なスイッチング電源回路を投入することで、出力パワーを妥協することなく徹底した軽量化に成功。

移動・運搬がスムーズに行え、複数台を設置する場合でも、設置床面の耐荷重の負担を軽減。

●優れたポータビリティ

シャーシは頑丈なスチール製。移動や運搬時における振動や衝撃に耐え、高い信頼性を確保。

● DSP（Digital Signal Processor）搭載

DSP 内蔵で、スピーカーに最適な設定を本体に保存可能。設定の呼出・変更は前面の液晶画面で確認できます。

USB で PC と接続可能。フリーソフトで各 DSP の詳細な設定ができます。

●プロの現場に即した保護回路

・ 出力電流リミッター

アンプの出力段をショートによるダメージから保護します。

・マイクロプロセッサー制御式 DC 保護回路

出力の DC オフセットが 2V を超えた場合にアンプの電源を切断します。

・サーマルプロテクション

内部ヒートシンク温度が正常動作温度（約 80℃）を超えると、サーマルプロテクション回路が作動します。サーマルプロテクションが作動する主な原因は以下のとおりです。

1）ラックの通気が不十分
2) 負荷インピーダンスの不整合
3) 出力ケーブルのショート
4) 通気口がふさがれている
5) 冷却ファンの故障

※サーマルプロテクションが作動した場合、直ちに原因を調べ、取り除いてください。原因を取り除かずに使用し続けると、再びサーマルプロテクションが作動します。

■開梱とアンプの配置

梱包を開けたらアンプ本体に輸送時の損傷が無いかをご確認ください。万が一損傷がある場合はお買い上げの販売店にすぐにお問い合わせください。その際点検のため、梱包材は全て保管してください。

また、機器の輸送を行う時のために梱包材を全て保管することをお勧めします。輸送を行う際はご購入時の梱包を使用してください。

アンプの使用には同梱していない以下の機器も必要です。

- **入力用のケーブル**
- **出力用のケーブル**
- **USB ケーブル（AB タイプ）**
- **マウント用のラック（ 安定した台に直接置くことも可能 ）**

警告
アンプの設定を開始する前に必ず本取扱説明書の冒頭にある「安全上のご注意」をお読みください。

注意
以降の設置を行う前に電源経路からの配線を外していること、電源スイッチを OFF にしていること、全てのつまみを下げきり（ 逆時計回し ）にしていることを必ず確認してください。

ラックマウントする際は 19 インチの標準ラックを使用します。

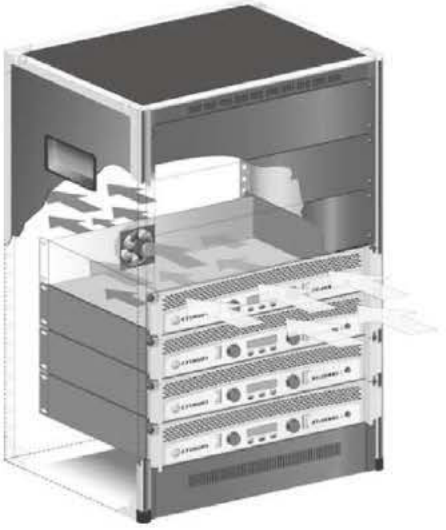
ラックを使用せずに台置きすることも可能です。

※アンプを移動する場合はアンプの前面および背面を支えて移動してください。

また、ラックマウントして開いたスペースはブランクパネルを使用して塞いでください。アンプの正面と背面は通気のため塞がないでください。

ラックの側面はアンプから少なくとも 5.1cm スペースを空けて設置してください。

図は XTi Series の空気の流れを図示したものです。



■保証について

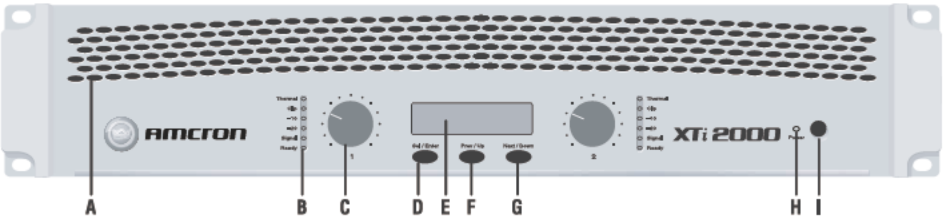
- 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名／ 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より 3 年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名／ 所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- 改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

■故障かな?と思われる症状が出たときは

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

■各部の名称と機能

前面パネル



A. グリル

冷却ファンの空気の吸い込み口です。絶対にグリルをふさがないでください。

B. メーター・グループ（各チャンネルに1系統）

Thermal **インジケーター**：
過熱状態になるとLED が赤く点灯します。

Clip **インジケーター**：
出力が過負荷状態になると、LED が赤く点灯。常に点灯しているときは、出力レベルを下げてください。

−10 **インジケーター**：
クリップの−10dB 前を超えると緑の LED が点滅。

−20 **インジケーター**：
クリップの−20dB 前を超えると緑の LED が点滅。

Signal **インジケーター**：
ごく低いレベルでも入力信号があれば緑の LED が点滅。

Ready **インジケーター**：
信号が出力可能な状態になると緑の LED が点灯。

C. レベルつまみ（各チャンネルに1系統）

クリック付きの回転式レベルつまみです。

D. Sel/Enter ボタン

液晶画面上のメニュー項目の操作に使用します。

E. バックライト付き液晶ディスプレイ

DSP の状態を表示。

F. Prev/Up ボタン

液晶画面上のメニュー項目の操作に使用します。

G. Next/Down ボタン

液晶画面上のメニュー項目の操作に使用します。

H. Power インジケーター

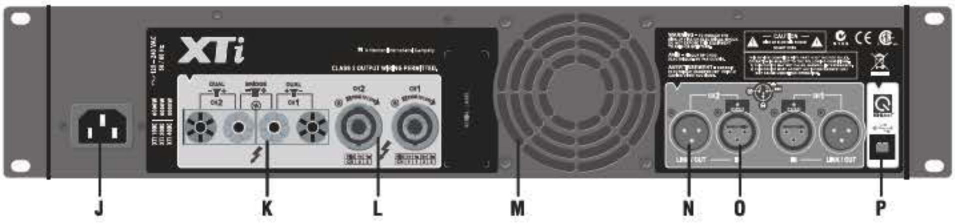
パワーアンプがオンで AC 電源が供給されている時、青く点灯します。

I. 電源スイッチ

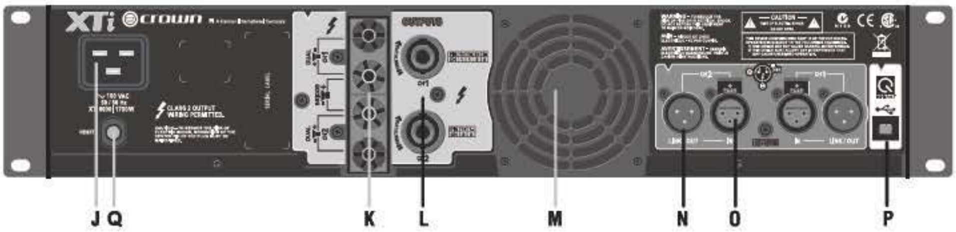
パワーアンプをオン / オフします。

背面パネル

XTi 1000, XTi 2000, XTi 4000



XTi 6000



J. 電源入力コネクター
電源ケーブルを取り付けます。

K. バインディングポスト出力コネクター
スピーカを接続するコネクターです。バナナプラグ、スペードラグ、先バラケーブルで接続できます。(次頁「コネクターへの接続」参照) スピコンと並列になっています。

L. スピコン (Speakon) 出力コネクター
ノイトリック製 NL4MP スピコン端子 (NL4FC に適合)。CH1 のスピコンは、1つのコネクターで両チャンネルに接続できます。CH2 は、チャンネル 2 の接続が可能。(次頁「接続」参照)

M. ファン
空気を前面から吸い込み背面へ送り出し、本体を冷却します。

N. LINK ／ OUT 端子 (各チャンネルに1系統)
入力コネクターからの信号を他のアンプへリンクするための接続用端子です。

O. バランスXLR入力コネクター(各チャンネルに1系統)
3 ピンメス XLR コネクター。音声信号を入力します。(次頁「コネクターへの接続」参照)

P. HiQnet USB 端子
HiQnet ネットワーク接続用の USB タイプ B 端子です。

Q. リセットボタン
ブレーカーをリセットします。

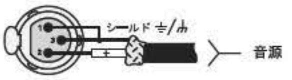
■コネクターへの接続

バランス XLR 入力コネクターへの接続

バランスケーブルの場合

1: グラウンド
2: +(プラス)
3: −(マイナス)

アンバランスケーブルの場合

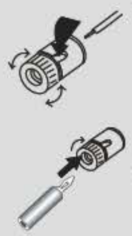


スピコン出力コネクター

使用するケーブルコネクターは NL4FX。

バインディングポストへの接続

先バラケーブル、バナナプラグの２種類を接続できます。



●先バラケーブルの場合
ノブをゆるめ、絶縁部をはがしたケーブルを穴に差し込み、しっかりしめつけます。

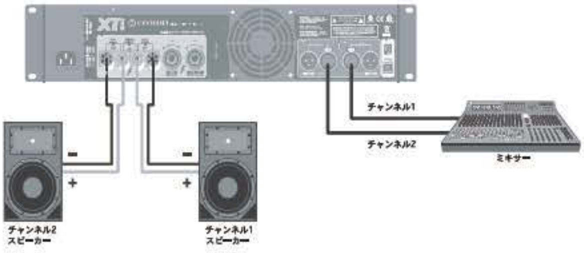
●バナナプラグの場合
ノブを強くしめてから差し込みます。

■接続

ステレオ接続

バインディングポストを使用した際の接続例。DSP のインプットの選択で「STEREO」に設定してください。

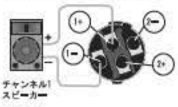
※ DSP の詳細は、p.9 を参照。



※スピコンを使用する場合、次の 2 通りの方法があります。どちらかの方法を選択してください。

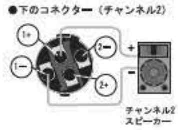
①両方のコネクターを使用し、チャンネル1とチャンネル 2 にそれぞれスピーカーを接続します。

●上のコネクター（チャンネル1）



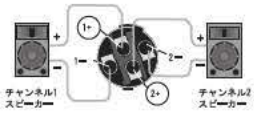
チャンネル	1	
極性	+	−
スピコンのピン番号	1+	1−

●下のコネクター（チャンネル2）



チャンネル	2	
極性	+	−
スピコンのピン番号	1+	1−

②右のコネクター (チャンネル 1) のみを使用し、チャンネル 1とチャンネル 2 にそれぞれスピーカーを接続します。

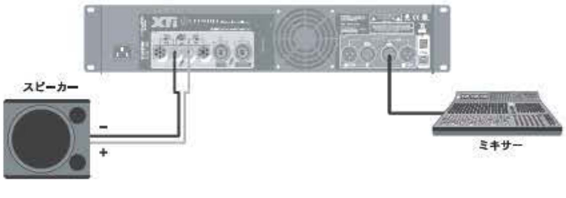


チャンネル	1		2	
極性	+	−	+	−
スピコンのピン番号	1+	1−	2+	2−

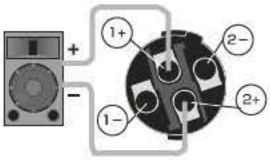
ブリッジモノ接続

ブリッジモードでドライブするときは、ステレオモードの 2 倍の出力電圧で、1つのスピーカーをドライブします。チャンネル1の入力信号は両方の出力に送られ、ブリッジできるようになります。DSP のインプットの選択は「INPUT　Y」に設定してください。アンプの出力は、バインディングポスト出力コネクターの赤いターミナルを両方使用します。チャンネル 1 の赤いターミナルが ＋ (プラス)、チャンネル 2 の赤いターミナルが − (マイナス) になります。

注意 : ブリッジモノモードでドライブするときは、チャンネル 1の出力レベルコントロールのみを使用します。
黒のターミナルに接続すると音が歪むため、絶対に使用しないで下さい。
接続可能な負荷インピーダンス (スピーカー) は 4 Ω以上です。



※スピコンを利用する場合は、右のコネクター (チャンネル 1) のみを使用します。

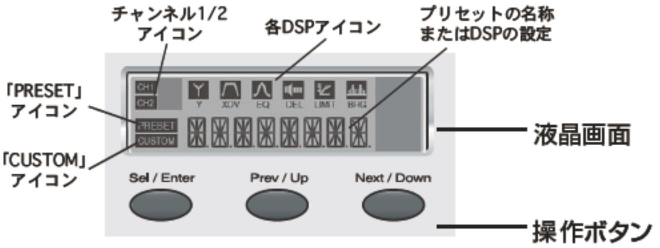


チャンネル	1	
極性	+	−
スピコンのピン番号	1+	2+

■ DSP 機能とクイックスタート・プリセット

XTi Series は、音響出力系の信号処理機能を搭載しています。多彩な機能を組み合わせて、様々な現場の要求に応えることができます。素早いセットアップに役立つ 5 種類のクイックスタート・プリセットも内蔵。さらに、ユーザー・プリセットを最大 15 パターンまで設定できます。プリセットの保存には **System Architect ソフトウェア**（www.harmanpro.com から無料でダウンロード可能）が必要です。前面パネルでは保存できませんので、ご注意ください。

※ System Architect については、p.9 以降を参照してください。

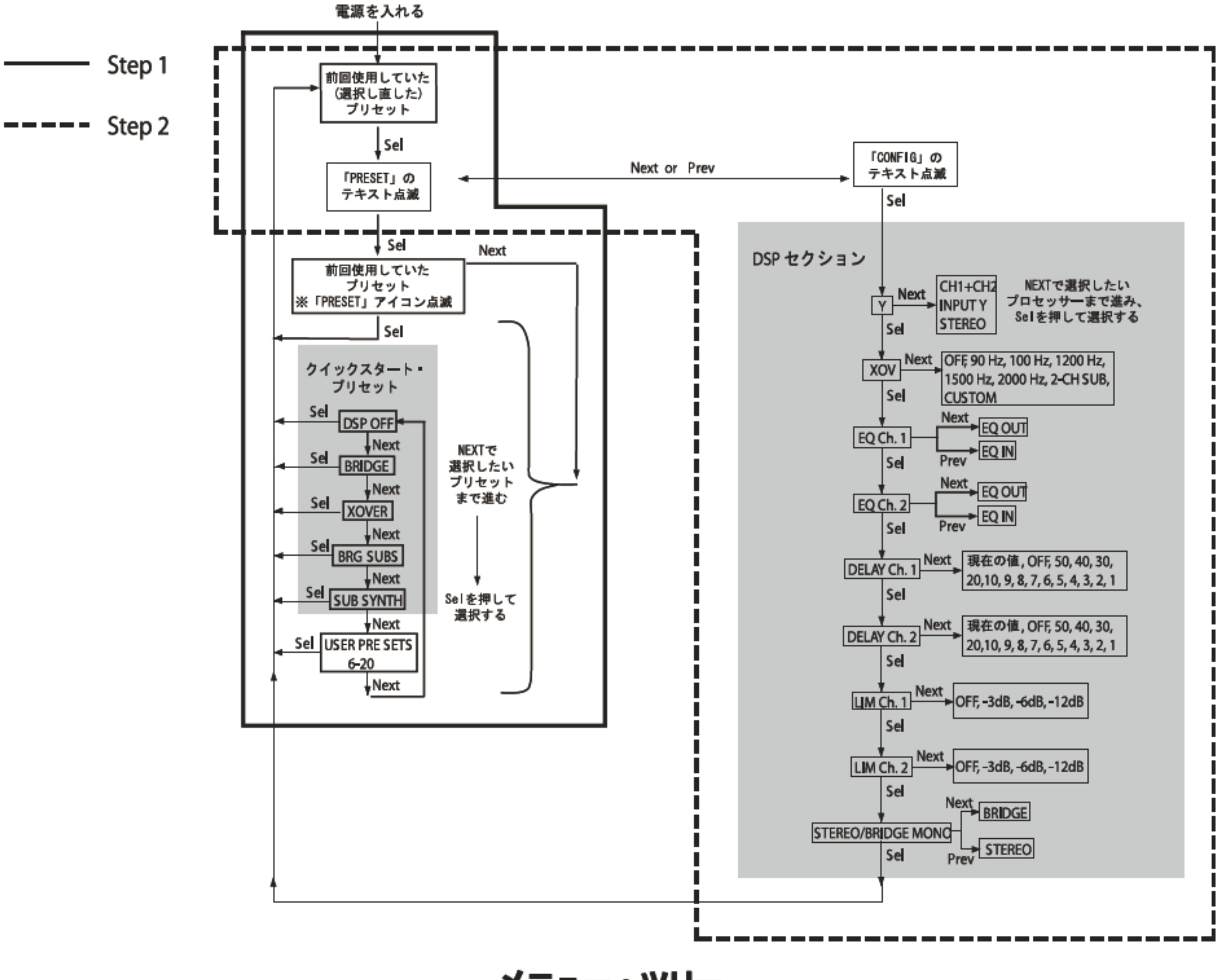


プリセットの選択は、液晶画面とメニュー操作ボタン（左から Sel/Enter、Prev/Up、Next/Down）で行います。各プリセットで使用中の DSP 機能は、対応するアイコンが画面上に現れます。

以下のメニュー・ツリーは、操作方法を系統立てて示しています。操作できる項目別に Step1 と Step2 に大別されています。まず、Step1 の操作で、クイックスタート・プリセットやユーザープリセットから使用したいプリセットを選択します。プリセットを選択した後、Step2 の操作で DSP の詳細な設定を行います。

クイックスタート・プリセットを選択している場合は、「PRESET」のアイコンが表示されます。クイックスタート・プリセットのパラメーターは、変更も可能。オリジナルの設定を変更した場合は、「CUSTOM」のアイコンが表示されます。

操作をしているときは、対応するアイコンが点滅しています。アイコンが点滅しているときに 14 秒間操作が行わなければ、変更前のプリセットに戻ります。



メニュー・ツリー

▼ DSP

Y

インプット

CH1+CH2（アイコンが点灯します）

CH1 の入力信号と CH2 の入力信号をサミングして、両出力チャンネルに送ります。両チャンネルのレベルつまみは有効です。

INPUT Y（アイコンが点灯します）

CH1 の入力信号を CH1 および CH2 出力に送ります。CH2 の入力コネクターへの信号は無視され、CH1 のレベルつまみのみ有効です。

STEREO

CH1 の入力信号を CH1 出力、CH2 の入力信号を CH2 出力にそれぞれ送ります。両チャンネルのレベルつまみは有効です。

※アンプの接続をブリッジモノに設定しているときは、CH2 の入力コネクターへの信号は無視されます。

XOV

クロスオーバー

チャンネル毎に別々のクロスオーバー周波数を設定できます。設定値は「OFF」、「90 Hz」、「100 Hz」、「1200 Hz」、「1500 Hz」、「2000 Hz」、「2ch-sub」、および「CUSTOM」です。「OFF」以外の設定でアイコンが点灯します。

※クロスオーバー機能を呼び出すと、「2ch-sub」以外は常に CH1 は低域、CH2 は高域に設定されます。CH1 に高域ドライバーを接続しないでください。

※「2ch-sub」は、CH1、CH2 ともに 90Hz のローパスフィルターが挿入されます。

※カスタム値の設定は、System Architect ソフトウェアで行います。設定を行うと、画面に「CUSTOM」アイコンが現れます。保存後、再度そのプリセットを呼び出すと、クロスオーバーアイコンと「CUSTOM」アイコンは表示されません。

EQ

イコライザー

チャンネル毎に別々の設定ができます。

IN（アイコンが点灯します）

「IN」に設定した場合、イコライザーが適用されます。イコライザーの周波数、ゲイン、Q の設定は、System Architect ソフトウェアで行います。

OUT

イコライザーはバイパスされます。

DEL

ディレイ

チャンネル毎に設定ができます。

設定値は「OFF」、「1-10 msec」、「10-50 msec」、および「0 sec」です。「OFF」以外の設定でアイコンが点灯します。

※「1-10 msec」は 1mm/sec 単位で 10mm/sec まで、「10-50 msec」は 10mm/sec 単位で 50mm/sec まで設定できます。

※「0 sec」は、System Architect ソフトウェアでディレイ時間を設定する場合に使用します。設定を行うと、画面に「CUSTOM」アイコンが現れます。保存後、再度そのプリセットを呼び出すと、ディレイアイコンと「CUSTOM」アイコンは表示されません。

LIMIT

リミッター

チャンネル毎に設定ができます。

いずれかのスレッショルドで設定できます。

- ・クリップの -3dB 前
- ・クリップの -6dB 前
- ・クリップの -12dB 前

「OFF」以外の設定でアイコンが点灯します。

BRG

ブリッジ

アンプの出力を ブリッジモノ または ステレオ に切り替えます。「BRIDGE」に設定した場合、CH1に入力信号を入れてください。「BRIDGE」の設定でアイコンが点灯します。「STEREO」の設定ではアイコンは表示されません。

▼クイックスタート・プリセット

● DSP OFF

表示アイコン：
なし

Y XOV EQ DEL LIMIT BRG

信号処理を行わずに入力信号をアンプに送ります。

● BRIDGE（ブリッジ） ※p.7「ブリッジモノ接続」参照

表示アイコン：
「Y」CH1+CH2
「BRG」

Y XOV EQ DEL LIMIT BRG

両チャンネルの入力信号をモノサミングして出力に送ります。アンプはブリッジモノに設定されます。

● XOVER（クロスオーバー）

表示アイコン：
「Y」INPUT Y
「XOV」

Y XOV EQ DEL LIMIT BRG

CH1 の入力信号を両チャンネルに送ります。出力は CH1 が低域、CH2 が高域となります。クロスオーバー周波数は 1.2kHz です。

● BRG SUBS（ブリッジ・サブ） ※p.7「ブリッジモノ接続」参照

表示アイコン：
「Y」CH1+CH2
「XOV」、「BRG」

Y XOV EQ DEL LIMIT BRG

両チャンネルの入力信号をモノサミングして出力に送ります。アンプはブリッジモノに設定され、出力には 90Hz のローパス・フィルターが挿入されます。

● SUB SYNTH（サブハーモニック・シンセサイザー）

表示アイコン：
「Y」CH1+CH2
「XOV」

Y XOV EQ DEL LIMIT BRG

低域信号を合成して重低音を加えます。両チャンネルの入力信号をモノサミングして両チャンネルの出力に送ります。出力には 90Hz のローパス・フィルターが挿入されます。

■ System Architect ソフトウェア

XTi Series は、PC コントロール用のソフトウェア「System Architect 」でプリセットの保存や DSP の詳細な設定を行うことができます。また System Architect は本体の設定や制御だけではなく、先進のデジタル技術を用いて複数の機器とのデジタル・ネットワークを統合する最新鋭のソフトウェアです。JBL PROFESSIONAL や dbx から販売されている System Architect 対応製品も System Architect 上で一括してコントロールできます。

● System Architect の動作環境

- ・CPU：クロック周波数1GHz以上のPentium Ⅲプロセッサー
- ・メモリ：512MB 以上
- ・OS：Windows 2000/XP Service Pack 2 以降
- ・HDD：最低 100MB 以上の空きが必要
- ・USB コネクター搭載の PC

推奨システム環境

- ・CPU：クロック周波数 3GHz 以上のPentium4プロセッサー
- ・メモリ：1GB 以上
- ・ディスプレイの画面解像度：1,024 × 768 ピクセル以上

●重要

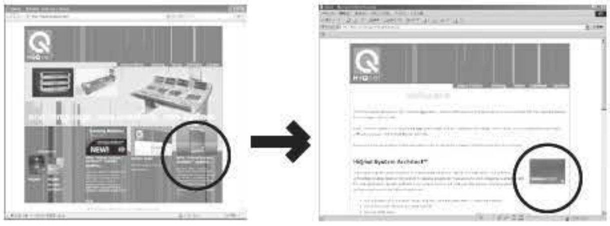
- ・ウィルス検知プログラムやシステムに常駐するプログラムがある場合は、あらかじめ終了してください。
- ・Windows XP にインストールする場合は［コンピュータの管理者］の権限を持つユーザ名でログオンする必要があります。
- ・Windows 2000 にインストールする場合は、［Administrator］の権限を持つユーザー名でログオンする必要があります。
- ・インストール処理中はユーザーの切替を行わないでください。
- ・System Architect は画面の DPI 設定が 120DPI の場合、正常に表示されません。その場合は［画面のプロパティ］の［詳細設定］で DPI 設定を 96DPI に変更してください。

※ XTi シリーズ専用のソフトウェア「Band Manager」も用意。XTi シリーズ用に集約されており、効率よくスピーディにシステム構築が可能です。（ダウンロードはこちらから→ http://hiqnet.harmanpro.com/bm_download.php）

▼ダウンロード

① PC の電源を入れて、Windows を起動します。

② Harman Professional のウェブサイト (http ://www.harmanpro.com) または CROWN のウェブサイト (http://www.crownaudio.com/) から HiQnet のロゴ (Q) をクリックして、ダウンロードサイトに行きます。



③ System Architect の画像をクリックするとログイン画面が出てきますので、メールアドレスとパスワードを入力して、「submit」ボタンをクリックします。

④使用する Windows の環境に合った最新のバージョンのソフトウェアをダウンロードします。

※ 2009 年 8 月現在のものをご案内しています。

〜〜〜〜〜スクロールダウン〜〜〜〜〜

※ System Architect v2.0 を操作するためには、Microsoft.NET Framework 3.5 SP1が必要です。使用するPCにMicrosoft.NET Framework 3.5 SP1 がインストールされているか確認してください。

確認の方法：コントロールパネル>プログラムの追加と削除

▼インストール

①ダウンロードが終了したファイルを解凍します。

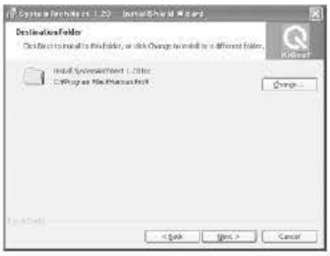
② System Architect フォルダ内にある「System Architect 2.00.exe」をクリックし、「InstallShield Wizard」が起動するのを待ちます。インストールを進める場合は、「NEXT」を、中止する場合は、「Cancel」をクリックします。

③「Licence Agreement」画面が開きます。使用許諾内容をよく読んで問題がなければ「I accept the terms in the license agreement.」にチェックをして「NEXT」をクリックします。

④「Customer Information」画面が開きます。「User Name(名前)」「Organization(所属)」を入力し、「NEXT」をクリックします。

⑤「Destination Folder」画面が開きます。

System Architect のインストール先を設定します。既定では C ドライブの C:¥Program Files¥Harman Pro¥ にインストールされます。通常はそのまま「NEXT」をクリックします。



※インストール先を変更する場合は「Change」をクリックして変更します。

⑥「Setup Type」画面が開きます。インストールの方法を「Complete」または「Custom」から選択します。

「Complete」を選択すると System Architect に含まれる全ての機能をインストールします。「Custom」は自分でインストールを行う項目を選択できます。「Custom」を選択し、「Next」をクリックするとウィンドウが開き、インストール項目の選択を行います。動作上の不具合が起きた場合など、特定の項目のみを再インストールする場合などに使用してください。

※「Custom」インストールはシステムに対して十分な知識を有している方のみを対象にしています。不具合が生じた場合も通常は「System Architect 」のアンインストールを行い、再度「Complete」を選択してインストールを行ってください。

⑦「Ready to Install the Program」画面が開きます。

インストール前の最終画面です。インストールの設定の確認や変更をしたい場合は、「Back」をクリックして希望の画面まで戻ります。

「Install」をクリックするとインストールが開始します。インストールには数分間かかります。

⑧「InstallShield Wizard Completed」画面が開きます。「Finish」をクリックすると、インストールが完了します。

※インストールが正しく行われなかった場合は保存先の System Architect（通常は C ドライブの Program Files フォルダ→ Harman Pro フォルダ内）をフォルダごと削除、または [スタート] メニュー → [すべてのプログラム] → [Harman Pro] → [System Architect] → [Uninstall System Architect] をクリックしてプログラムの削除を行い、再度インストールを行ってください。

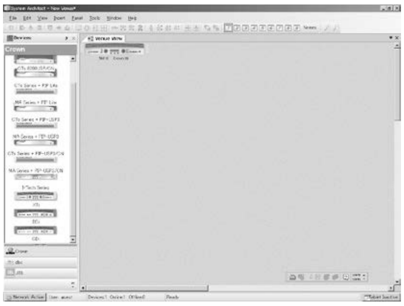
▼ System Architect の操作

●起動と終了

インストール作業時にインストール先の指定を変更していない場合は、タスクバーの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Harman Pro」→「System Architect 」→「System Architect」アイコン（ ）をクリックすると、ユーザー名とパスワードを請求する画面が出てきますが、キャンセルを押して進んでください。System Architect が起動します。

インストール先を変更したなど、「すべてのプログラム」からたどれない場合はインストール先のフォルダを開き、System Architect のアイコンをダブルクリックしてください。

System Architect が起動すると下図の起動画面が開きます。本体とPC をUSB ケーブルで接続すると、XTi のフロントパネルが現れます。



System Architect を終了させる場合は、「File」メニュー→「Exit」をクリック、もしくは画面右上の「×」をクリックしてください。

●「Recall(呼び出し)」と「Store(上書き保存)」

画面に現れた XTi のフロントパネルをダブルクリックすると「Recall(呼び出し)」と「Store(上書き保存)」を行うコントロールパネルが現れます。

「Recall」をクリックして接続した本機内のプリセットを呼び出します。設定を行った後、保存する場合は「Store」をクリックします。「Store」をクリックした後、ユーザープリセットの 6 ～ 20 から保存先を選択し、名前を付けて保存することも可能です。

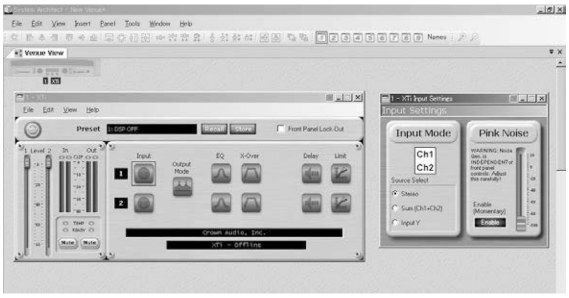
本体フロントパネル LED に表示

※ System Architect で、クイックスタート・プリセットに Store すると、「DSP OFF」以外はデフォルトに戻りません。注意してください。

各 DSP セクションの設定

本体の LCD と同じアイコンを使用したコントロールパネルを採用。アイコンをクリックすれば、詳細な設定が可能です。

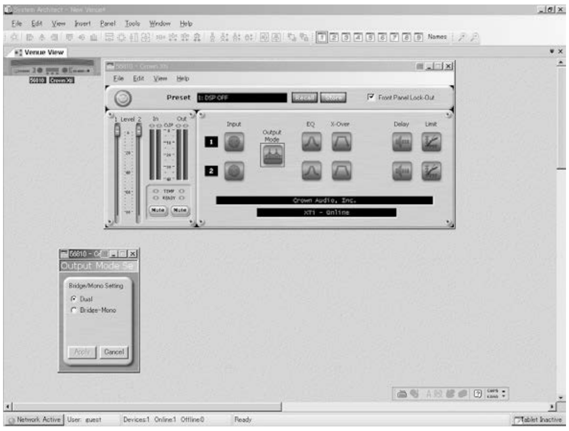
● Input（インプット）



「STEREO」「INPUT Y」「CH1+CH2」を選択できるほか、システムの検証に役立つ PINK NOISE ジェネレーターも装備しています。

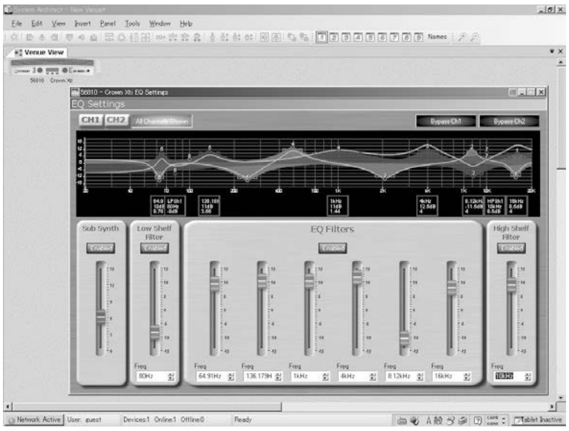
※ PINK NOISE ジェネレーターのレベルは、フロントパネルのレベルつまみと無関係です。取り扱いには十分注意してください。

● Output（アウトプット）



「Dual」「Bridge-Mono」を選択できます。

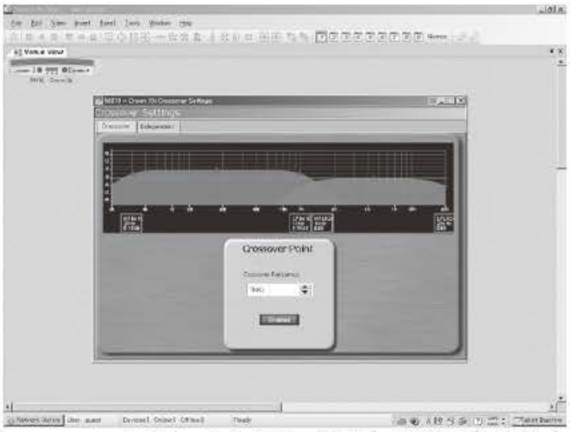
● EQ（イコライザー）



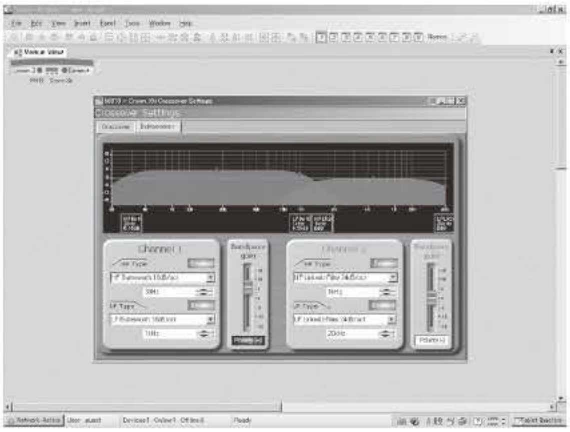
LOW/HIGH Shelf Filter と 6 ポイントの PEQ やサブハーモニック・シンセサイザーの設定が可能。

● X-Over（クロスオーバー）

クロスオーバーの設定には、「Crossover」と「Independant」の 2 種類のシートが用意されています。画面左上のダブルクリックして選択してください。

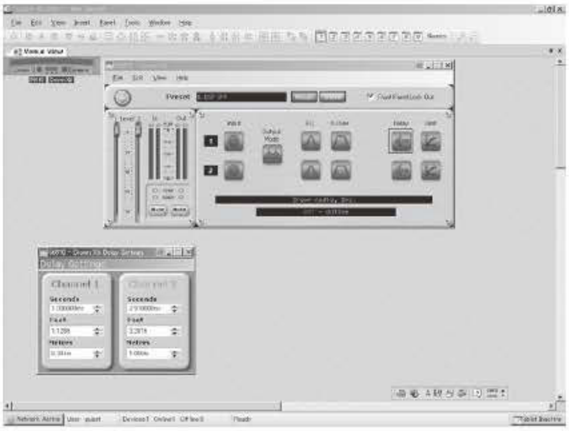


「Crossover」のシート上では、CH1 と CH2 のクロスオーバー周波数を同時に設定可能。



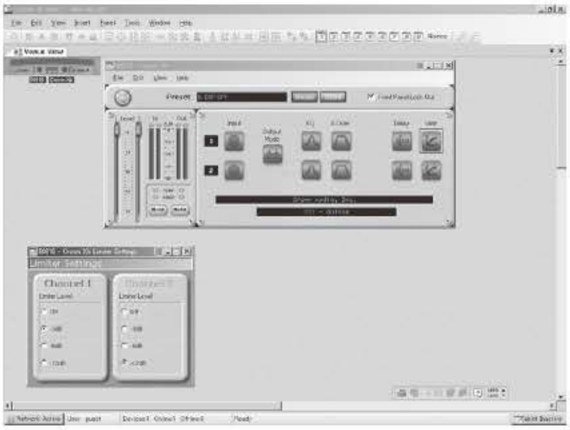
「Independent」シート上では、チャンネル毎にフィルターとカットオフ周波数、レベルや極性を設定できます。

● Delay（ディレイ）



「ms(ミリセコンド)」の他にも「Feet(フィート)」「Meters(メーター)」でのディレイ設定が可能。

● Limit（リミッター）



「Off」「-3dB」「-6dB」「-12dB」からスレッショルドを選択できます。

■ロック / アンロック

フロントパネルからのロック / アンロック

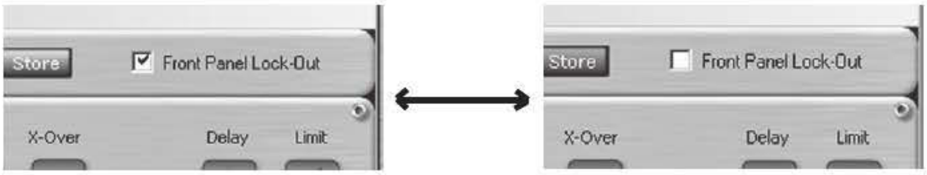
本機のフロントパネルにある「Prev/Up」ボタンと「Next/Down」ボタンを長押しし、画面に「Locked」と表示されたところで手を離します。ボタンをロックして誤操作を防止します。ただし、レベルつまみは常に機能します。

ロックを解除するには、「Prev/Up」ボタンと「Next/Down」ボタンを押し続け、画面に「Unlocked」と表示されたところで手を離します。

System Architect からのロック / アンロック

コントロールパネルにある「Front Panel Lock-Out」のチェックボックスにチェックを入れると、本機の画面に「Locked」と表示され、本機からの操作が不可能になります。

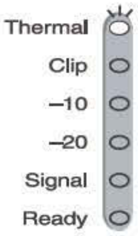
ロックを解除するには、「Front Panel Lock-Out」のチェックボックスのチェックを外します。



■トラブルシューティング

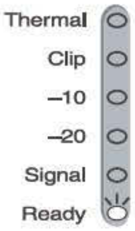
以下は、通常発生する症状とその対策です。解決できない場合は、お買い上げ店にご相談ください。

●音が出ない



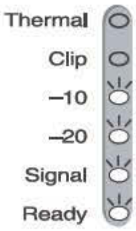
Thermal インジケーターが点灯。

サーマルプロテクション回路が作動しています。電源を切り、放熱のため時間をおきます。グリルが汚れているときは汚れを取り除きます。



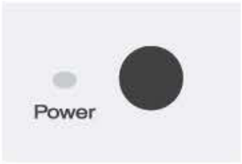
Ready インジケーターが点灯。

入力信号がないかレベルが低すぎます。レベルつまみを回してレベルを確認してください。



インジケーターは正常な状態。

スピーカーの接続を確認してください。スピーカーの接続方法については、p.7 の接続の項目を参照してください。



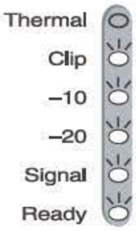
Power インジケーターが点灯していない。

アンプの電源が入っていません。電源コードがコンセントとアンプに接続されているか確認し、電源スイッチを ON にしてください。

Power インジケーターが点灯。

アンプの電源が入ったばかりの時は、立ち上がりに少々時間がかかります。しばらくお待ちください。

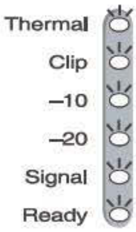
●音が歪む



Clip インジケーターが点灯。

入力信号レベルが高すぎるため歪んでいます。レベルつまみを左に回して、Clip インジケーターが時々点灯するレベルになるまで下げてください。

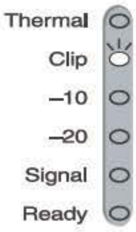
■アンプが Fault(故障) モードになった場合



●メーター・グループの全てのインジケーターが点灯

1. サーマルプロテクション回路が作動しています。電源を切り、放熱のため時間をおきます。グリルが汚れているときは汚れを取り除きます。
2. スピーカーまたはスピーカーケーブルがショートしています。Clip インジケーターが点灯している方のスピーカーやスピーカーケーブルを一つずつ取り外し、原因の箇所を特定します。不具合があった場合は、正常なものに交換します。

※上記の処置を行っても全てのインジケーターが点灯するときは、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

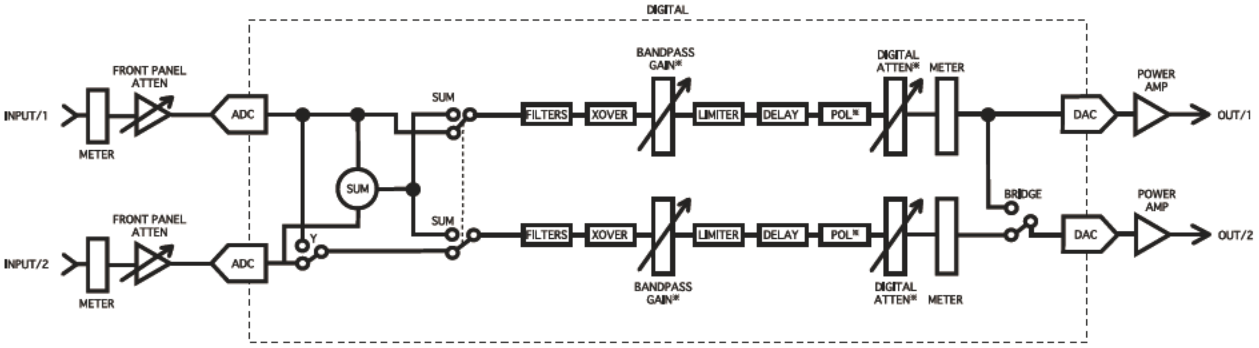


●入力を接続せずにレベルつまみを絞りきっていても Clip インジケーターが点灯する

DC 保護回路が作動しています。

アンプ・チャンネルの故障が原因です。お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

■ブロックダイヤグラム



ALL SWITCHES IN DEFALT POSITION

※This control only available in the software.

■仕様

		XTi 1000	XTi 2000	XTi 4000	XTi 6000
ステレオ出力 (1kHz,THD 0.5%)	2Ω	–	1,000W+1,000W※	1,600W+1,600W※	3,000W+3,000W※
	4Ω	500W+500W	800W+800W	1,200W+1,200W	2,100W+2,100W
	8Ω	275W+275W	475W+475W	650W+650W	1,200W+1,200W
ブリッジモノ出力 (1kHz,THD 0.5%)	4Ω	–	2,000W※	3,200W※	6,000W※
	8Ω	1,000W	1,600W	2,400W	4,200W
周波数特性 (20Hz～20kHz, 1W, 4Ω)		+0/−1dB			
SN比(1kHz以下, 8Ω)		100dB(Aウェイト)			103dB(Aウェイト)
ダンピングファクター		500以上(20Hz～400Hz)			
入力インピーダンス		20kΩ(バランス), 10kΩ(アンバランス)			
入力感度		1.4V			
入力コネクター		XLR			
出力コネクター		ノイトリック製4Pスピコン(NL4MP), バインディングポスト			
ネットワークコネクター		USB			
インジケーター		Signal, −10, −20, Ready, Clip, Thermal, Power			
電源		AC100V, 50/60Hz			
消費電力(IEC60065)		1,200W	1,230W	1,250W	1,700W
寸法(幅×高×奥行, mm)		483×89×340 (マウント面から)			483×89×415 (マウント面から)
質量		8.2kg	8.9kg		11.0kg
備考		–			C型コネクター

※ THD1%

●この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
●この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、各社の登録商標または商標です。

09/09

http://www.hibino.co.jp/
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110　FAX: 03-5783-3111

北海道オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770　FAX: 011-640-6776

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890　FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712　FAX: 052-589-2719

福岡ブランチ
〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊1-5-24
TEL: 092-475-2555　FAX: 092-482-4535